寛永諸家譜

藤原氏庚二冊之内二

長良流　長方流　師尹流

107

内閣文庫
番號 和 20199
冊數 186(107)
函號 特 76 1

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

有馬　大村
糟屋　堀内
渋谷

寛永諸家系圖傳

藤原氏　庚二　小家

長良流

有馬

大織冠六代

冬嗣

右大臣　右大將　正二位　贈太政大臣

正一位　閑院大臣と号す

浅草文庫

長良

右近衛　中納言　正三位　従三位　勘太政官

遠経

右大辨　従四位上　蔵人頭

良範

筑前守　太宰少貳

純友

伊豫掾

直澄

従五位下　遠江守

諸澄

永澄

国立公文書館
National Archives of Japan

清隆

遠隆

幸隆

信隆

友隆

家隆

左兵衛尉

三郎兵衛尉

連隆

貞隆

左近将監

上総權介

隆世

満隆

宮内少輔

氏隆

右近将監

貴純

右近将監　肥前守

尚鑑

右兵衛尉

晴純

修理大夫

将軍源義晴ハ諱乃字ヲ給フ

晴純ヲ称ス

義直

修理大夫

将軍義晴ハ諱乃字ヲ給フ

純忠

民部大輔　大村ノ養子

直負

左衛門　千石の親子

盛

五郎　松浦丹後守の親子

等童丸

志波兵部少輔源信の親子

肥後守天草

義純

太郎

将軍義昭より義の字をもらう

藤童丸

松浦波多の親子

晴信

俊盛大夫

等長五千石四郎

東照大権現

加藤肥後守清正と申すべく小西摂津守
所領の宇土の城と攻のとき晴信を
同盟にしたがつて悪左衛門直純
父子ともに軍事をつとむ此
ときに直純十五歳なり

同十四年
大樹様の厳命として長崎
ときしき南蛮の高船とらや
ゆるこれを海しづむ

同十七年
大樹様の御家康と厳命
によつて慶長年の末甲州郡内
をもつて自殺

直純

石塔作
直純十八歳より
大樹様より御傍を仕

等長十又
歳命ずるとく
ずゝ多義流当るゞ娘と聚ゝ長老
御膳地と称ふ
同十七
大検規四万石の家也と雖ども此ときゝ
鍋釜わりてはゝ雖いく又刑ありて
うれ仏とつゞし使ふと例ると
いへども亜純幼年にわたくに
ゝり且又と不和ゝるゝきに

ゝゝゝゝて新ゝ家也と称ふ又ゞ
ゝゝ跡とゝ雖ゝるはゝで
同年ゝゝゝゝの宗門制禁の
ゝゝ肥ゝ高ゝ来邪のゝゝゝ彼
京つゝゝれゝゝを伝聽て
遣と作ゝゝく浄土宗のゆつ
第遍意と言ゝ来の邪ゝゝ極ゝて
ゝれ法とひろめ心ゝゝゆへる
きゝしゝんゝ邪法ゝれ変ゝ

宗旨と費ぜざるもあらばこれを
禁ず
同十九年一百三千石地と日向国
ゝとひくゝ為ゝ為ゝ穏く
八百三千石と領ず
同年大坂御陣のとき本多毎信
と申るゝ陣を凱旋のとき
御賜ゝ為ゝ領地ゝ体を
賜ゝ大坂再陣のとき

厳命をゝ為ゝ日向ゝ為ゝて
ゝ地と為ゝ
寛永九年加藤肥後守顕国の時
将軍家の仰ゝ為ゝて肥後の国
八代の城とゝけゝ為ゝれとまゝる
同年内々肥後の国と細川越中守
忠利ゝ為ゝ
西紙八代と忠利ゝ為ゝて
同十一年肥前の国鍋原一揆蜂起

望年正月十二日　歳暮となり
ゆりかもめ　清水おし
むく
同十八日　四月廿五日　卒去

康純
義人
元和二年　康純四歳のとき質と
なりて江戸に居る

寛永三年
名古屋城殿
初軍家御入洛のとき　康純ひかれて
八月洛　九月初旬江戸
又伺ひ下り　叙
同月二條亭　行幸
将軍家御上洛　御参内時
康純供奉つかまつる　十四歳
同十年　歳命　阿部

弟馬守主次ノ娘ト娶
同十四年肥前源原きわしたんの邦
流一揆のとう宋ぴの土民と新ら
ゆしゃ処 詔命くだりて日向国
かへる
翌年正月又亜純ハ 召命を蒙じて
ひたちわらぐに鴻原よりしく康純ハ
日向国名士と云さひく源原しいろ
同十八年くだけるを 詔命を

元純

八年

くゆりて亜純ノ生傾の内五万石
とる向ふ此和三千石と弟元純
ゆりてる

国立公文書館
National Archives of Japan

大村

家伝

長良四代伊豫掾

純友ガ後裔ナリ

純御

德純

左近少將

大炊助

純治

民部大輔

純信

孫太郎

純前

丹後守

純忠

民部大輔

純前やしなわれし子ども実は有馬
修理大夫晴純の子なり

喜前

丹後守　従四位下

元和二年八月八日辛巳

純頼

民部大輔　従四位下

元和五年十一月十五日辛未

純信

丹後守　童名松丸

元和六年八月十五日父ゞ逝去

つゞく

右德院殿ゟ仕ル毛ゝ之後

將軍家ゟ之つゞ

家紋

国立公文書館
National Archives of Japan

良方流
糟屋

冬嗣
從一位　右大臣

良方
藤大納言

元方

糟屋庄左衛門

久季

糟屋庄司

家季

十郎左衛門　後家忠とあり

義忠

岡左衛門

光綱

庄藤

盛久

若狭権守

久繁
小八郎

盛時
六郎

延時
十郎兵衛尉

忠清
兵衛六郎　法名覚隆

頼忠

真忠
七郎

国立公文書館
National Archives of Japan

行忠

九郎　修理亮

泰忠

七郎　修理亮

範忠

十郎

忠安

兵庫助

二郎

討死

相喜

修理亮　但馬守

仕名宗巳

国立公文書館
National Archives of Japan

政忠

与兵衛

宗門よりとがめいだされ

東照大権現へ召出され

八十歳にて死す　法名常参

右盛

与兵衛

十六歳にてはじめて

台徳院殿へ召出され

右勝

弥兵衛

寛永十二年

将軍家へ召出され

家没　巳九三所

国立公文書館
National Archives of Japan

師平流

塙門

家伝ハ右大臣實賴公ノ
苗裔實方中將ノ末葉教忠と
塙門と称ス後白河院の御宇ニ
熊野新宮別當職
小補ニ成教忠源為義の娘高
原姫と娶テ後為義教忠と号ス

八幡蜘切と
号する法華経と教真
南湯殿此剣と判官義経と
号する氏虎を的商ちわれ
と梅ちと教真別当職の事い
下剣者ちに
いへと剣巻
事といへ又堀内と称せ
ちをわひと年代ちに

百ちと家系ちに
らるしとも官名の系
と乗ちに実朝の弟小一條
右大臣師平の孫実方朝臣
と越野別当と号をちを
湯快といひ湯快ちと湯殿
よりおひいく越野別当ち
ちが少へ伝と
これと誓て師平流とも

氏庭

氏善

安房
教主より氏善に累代
熊野新宮の別当職を補せられ
氏庭に いたるまでいまゝつゝ
所不あるゝど氏善にゝ 織田

伝長に 後豊臣秀吉に
つゝ
元和元年四月十日肥後熊本城に
て死去 六十七歳 法名矣翁

氏定

主水 紀州新宮に生
元和元年八月七日わかく
東照大権現に 渇仰したまつり

正後

白川院殿

將軍家ゝ侍ゝ

家紋桐菊

国立公文書館
National Archives of Japan

奥久

同情　清名禮山常光

渟谷

家傳ニハ中村真方ノ後裔ニ
シテ方部ト称ス東下ヲ奥州
南部渟谷ニ居ル所ヲこれ
渟谷と称ス

奥州津軽家

丈夫

羊角　津軽奇山道真
津軽家

丈次

伊達國奥州津軽

寛永四年ヨリ
台徳院殿
将軍家ヲ渇
幕紋車

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan